2　浅田宗伯の自筆稿本類――国会図書館鶚軒本

町　泉寿郎

浅田宗伯（一八一五―一八九四）に関する研究は、古くは赤沼金三郎『浅田宗伯翁伝』（一八九五）、中野康章『浅田宗伯伝』（一九三五）、近年では矢数道明「明治漢方最後の巨頭　栗園浅田宗伯の人と業績」（一九八二、名著出版『近世漢方医学史―曲直瀬道三とその学統―』）などがある。研究基盤となる資料には、矢数道明『近世漢方医学書集成』九五―一〇〇（一九八二・八三、名著出版）、長谷川弥人『浅田宗伯選集』『続・浅田宗伯選集』（一九八七―九二、谷口書店）、五十嵐金三郎『浅田宗伯書簡集』（一九八六、汲古書院）が備わり、百を優に越える著述の書誌に関しても真柳誠「浅田宗伯の著述とその所在」（一九九〇、『漢方の臨床』三七―九）が参考になる。

ところが意外にも国立国会図書館（古典籍資料室・鶚軒文庫、以下国会鶚軒と略称）には、上掲の諸研究にも言及されることがなかった、宗伯自筆本を多量に含む「浅田宗伯遺書」が収蔵されている。これまでの調査の結果、判明したものは次の二五部である。

1『墨船集』（鶚・三四四〇）写一冊
2『浅田東斎行状・弔浅田城文』（鶚・三八九八）写一冊
3・4『杏檀余芳』（鶚・四〇八三、四〇八四）各写一冊
5『杏園詩存』（鶚・四〇八七）写一冊
6『新報詩料』（鶚・四〇九〇）写一冊
7『澡泉余録』（鶚・四〇九一）写一冊
8『沢畔集』（鶚・四〇九二）写一冊
9『南園詩鈔序並皇朝医叢序』（鶚・四〇九四）写一冊
10・11『栗園存稿』『同　二』（鶚・四〇九七、四一〇二）各写一冊
12『続栗園存稿』（鶚・四〇九八）写二冊
13『栗園詩存　続一』（鶚・四〇九九）写一冊
14『栗園文』（鶚・四一〇〇）写一冊
15・16『栗園文存　上編』『栗園文存』（鶚・四一〇一甲、四一〇一乙）各写一冊

17・18・19・20『栗園余草　詩』（鶚・四一〇三）写二冊、『同　文』（鶚・四一〇四甲、四一〇四乙）『同　詩文』（鶚・四一〇五）各写一冊

21・22・23・24『栗園賸稿　詩文』（鶚・四一〇六甲）写六冊、『同　詩文』（鶚・四一〇六乙）『同　詩』（鶚・四一〇七）『同　雑』（鶚・四一〇八）各写一冊

25『栗園録稿』（鶚・四一〇九）写一冊

右は鶚軒土肥慶蔵（一八六六―一九三一）の旧蔵書である。鶚軒蔵書は慶蔵没後、三井家の戸越別邸（現国文学研究資料館）の書庫に収められ、戦後、古医書関係一五四四部四六一八冊は東京大学図書館（昭和三二年登録）に、日本漢詩文関係三四三四部七八九八冊は国立国会図書館（昭和二五年購入）に、その他はカリフォルニア大学バークレー校に分蔵された。東大鶚軒文庫にも自筆本を含む宗伯遺著が残されていることが知られているが、用箋等の本の体裁からみて国会鶚軒の「浅田宗伯遺書」と明らかに同系統の写本群であり、もと同一経路から鶚軒の手に入ったものと考えられる。鶚軒入手の時期は未詳であるが、大正二年十二月刊『鶚軒文庫日本詩文書目録』に前記国会鶚軒のうち1以外が未収であること、また昭和三年に浅田宗伯旧蔵書二四八部一〇三三冊が東京帝国大学図書館に購入されていることが参考となる。

国会鶚軒の「浅田宗伯遺書」の特徴は、当然ながら漢詩文関係の文学的営為を示すものが多い。今村了庵、栗本鋤雲、鱸松塘、宮本鴨北、蒲生重章、中村敬宇、川田甕江らの朱批が残る詩文稿は、宗伯のこの方面での研鑽の跡を示す。また真柳の調査で「所在不詳」とされた宗伯著述の所在を補完することができる。さらに『皇国名医伝』執筆の基礎資料となったと思われる医人伝記資料のなかに、貴重な医史学資料が見出される。

（北里研究所・東洋医学総合研究所医史学研究部）